

自：2015年4月 1日
至：2016年3月31日



NCAJ

National Camping Association of Japan

事業報告書 2015



公益社団法人日本キャンプ協会

2015年度事業総括

2015年度は、世界各地でのテロ事件の頻発、シリア難民のヨーロッパへの大量流入、世界的な経済状況の足踏みなどから、この百数十年続いてきた社会の仕組みのほころびを感じさせられた一年となりました。日本でも、東京オリンピック・パラリンピックを巡って、エンブレムや競技場の決定プロセスが問題視され、少し前の時代のやり方がもうすでに通用しないことが明らかになりました。

日本キャンプ協会にとっては将来に向けた変化を意識しながら、翌年に迫った設立 50 周年に向けた準備に取り組んだ一年でした。

設立 50 周年記念事業に関しては、前年度に立ち上げた設立 50 周年記念事業組織委員会に続いて、具体的な作業を行う「研修・研究部会」「白書部会」「イベント部会」などの作業部会を設け、準備を進めるとともに、WEB サイトなどを通じて情報提供を開始しました。

静岡県立朝霧野外活動センターの指定管理者としての運営は、第 3 期が始まりました。主催事業を含め、運営は順調に行われ、外部評価委員会からも大変高い評価を受けています。

2011 年度から日本キャンプ協会、日本 YMCA 同盟、朝日新聞厚生文化事業団の三者で行ってきたグリーンキャンプは、秋の「グリーンキャンプ・リユニオン」と報告書の発行をもってひとまず終了しました。しかし、このグリーンキャンプは今後も重要なテーマであると考え、アメリカで行われているグリーンキャンプ「El Tesoro de la Vida」や、子どもグリーンサポートステーションの実施するキャンプに職員を派遣しました。

指導者養成制度については、課程認定団体におけるキャンプディレクター 2 級の養成も 2 年目となり、7 つの都道府県キャンプ協会、7 つの課程認定校での養成が行われ、合わせて 115 人が受講し、定着が期待されます。そこで、課程認定団体における 2 級養成がよりスムーズに行えるよう、養成テキスト『キャンプディレクター必携』の改定作業に着手しました。このテキストは 2017 年度に使用開始を予定しており、テキストの改訂と合わせて講習会で実際に使ってもらえる副教材も用意する予定です。これにより、1 級と合わせ、キャンプディレクター養成がより一層充実することが期待されます。

法人運営に関しては、一層の合理化を図り経費の節減に努めるとともに、会議体のあり方など協会運営全般についての検討を進めました。これについては、今後数年をかけて、改善を進めたいと考えています。

会員数の漸減などの厳しい状況は引き続きありますが、この年度に積み重ねてきた準備を生かすことで、多くの人が集い、学び合う設立 50 周年記念事業を多様に展開し、新しい日本キャンプ協会像を描いていきたいと思えます。

2015 年度も多くの方々の力に支えられ、さまざまな事業を行えたことを感謝申し上げます。

キャンプの活動を発展させ、広めていく事業

この年度は、翌年に控えた設立 50 周年を広く日本キャンプ協会を知っていただく機会とすべく、さまざまな記念事業の準備を多くの人や団体の協力を得て進めた。中心となる事業のひとつである第 6 回アジア・オセアニア・キャンプ大会(AOCC 2016)については、複数の作業部会で内容を検討し、発表者募集、参加者募集を始めた。

また、例年同様に、『CAMPING』や WEB サイト、メールマガジン等を通じて、情報発信に努めたほか、キャンプの普及を図る事業が全国で行われるよう、各地での事業をバックアップする取り組みを前年度に引き続き行った。

1. 設立 50 周年記念事業に向けた取り組み

設立 50 周年の複数の記念事業を円滑に行うため、第 2 回 50 周年記念事業組織委員会を行ったほか、事業分野毎の作業部会を立ち上げ準備を進めた。2016 年 2 月には、発表者募集及び参加者募集を開始した。

また、各都道府県キャンプ協会が 2016 年度に実施するすべての事業も記念事業と位置づけ、記念バナーの使用を呼びかけたほか、記念 T シャツの作成に着手した。

(1) 第 2 回 50 周年記念事業組織委員会の実施

この会には組織委員のほか、アジア・オセアニア・キャンプ連盟会長のビル・オークレー氏、国際キャンプ連盟会長のジョン・ジョルゲンソン氏、作業部長らも参加し、第 6 回アジア・オセアニア・キャンプ大会の具体的なイメージの共有を図った。

日 程：10 月 12 日(月・祝)

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）



(2) 作業部会等の実施

事業・役割毎の委員会、作業部会を構成し、具体的な準備を進めた。

大会事務局	AOCC 2016 の運営全体の管理を担当
実行委員会	各部会等の連絡協議体(各部会の部会長・アドバイザー等で構成)
研究・研修部会	AOCC 2016 での発表、ワークショップ等の企画・運営を担当
キャンプ白書部会	キャンプ白書 2016 の企画・編集を担当
イベント部会	AOCC 2016 におけるパーティ等の企画・運営を担当
ホスピタリティ部会	国内外参加者対応、ボランティア対応等を担当
ICDC 部会	プレプログラムとしての研修会「International Camp Director Course(ICDC)」の企画・運営を担当
グッズ部会	AOCC 2016 で参加者に配布する記念グッズの企画・作成を担当

(3) 第6回アジア・オセアニア・キャンプ大会の広報活動

発表者募集、参加者募集や各種の案内を日本語と英語で行うWEBサイトを開設したほか、専用のFacebookページを設け、きめ細かな情報発信を開始した。

また、国際キャンプ連盟の協力を得て、国際キャンプ連盟のWEBサイトに情報を掲載したほか、2月にアトランタで行われたアメリカキャンプ協会の年次大会で英文の開催要項を配布し、広報活動を行った。



WEBサイト：www.aocc2016.camping.or.jp/japanese

Facebook ページ：www.facebook.com/AOCC2016TokyoNCAJ50thAnniversary

(4) 日本キャンプ協会設立 50 周年特設サイトの開設

50 周年記念事業のお知らせや、お祝いメッセージ、日本キャンプ協会の歴史などを掲載した特設サイトを設けた。

WEB サイト：www.50th.camping.or.jp

(5) 「キャンプの魅力」フォトコンテストの募集

50 周年記念事業の一環として、「キャンプの魅力」フォトコンテストの募集を開始した。国内外から広く作品を募集し、優秀作品には賞を贈るとともに、AOCC 2016 の際に、展示、表彰を行う。

募集期間：1 月 20 日(水)～8 月 31 日(水)

募集 WEB サイト：www.50th.camping.or.jp/photo.html

第 6 回アジア・オセアニア・キャンプ大会について

日本キャンプ協会設立 50 周年記念事業は、各都道府県キャンプ協会のご協力もいただきながらさまざまなものを行いたいと考えていますが、その中心となるのが、10 月に行う「第 6 回アジア・オセアニア・キャンプ大会（The 6th Asia Oceania Camping Congress）」です。

アジア・オセアニアに限らず全世界のキャンプ関係者の集まる大会ですが、せつかくの機会ですので、日本キャンプ協会の会員のみなさんや、国内でキャンプや子どもにかかわる多くの人々に集まっていただきたいと思っています。

大会期間中には、日本キャンプ協会の設立 50 周年記念式典や、会員のみなさんの集まる場を設けます。また、他の参加者とともにお祝いするパーティや、小さな団体でのイベントなども企画しています。

多くの人が集い、交流し、学びあう楽しい時間を作りますので、ぜひ多くの方に参加していただきたいと思います。（また、通訳などボランティアスタッフの募集も別途行います。）

大会のテーマは「アウトリーチ～手をさしのべるキャンプ～」です。

キャンプは、参加する人たちに力を与える活動です。そのキャンプのよさを広げて、もっともっといろんな人に「キャンプしませんか？」と呼びかけ、キャンプを行い、よりよい社会を作っていこうというものです。海外の先進事例だけでなく、みなさんが地域で行っている活動を紹介していくことで、学びあいの輪を広げませんか？



日 程：2016 年 10 月 28 日(金)～11 月 1 日(火)

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

参加費：全日程・29,000 円 3 日間：24,000 円 2 日間：16,000 円 1 日間：9,000 円

※宿泊費は別途

※参加費には大会プログラム、キャンプ白書、大会バッグ、記念 T シャツ、パーティ参加などを含む

大会 WEB サイト www.aocc2016.camping.or.jp/japanese/ (インフォメーション)

www.aocc2016.camping.or.jp/japanese/call-for-presenter (発表受付)

<https://biz.knt.co.jp/tour/2016/aocc/> (参加受付)

大会 Facebook www.facebook.com/AOCC2016TokyoNCAJ50thAnniversary/

(6) 50周年記念事業を全国に広げるための取り組み 都道府県キャンプ協会の行うものも含め、2016年度に行う事業をすべて記念事業と位置づけて実施していただくため、記念バナーの使用の呼びかけたほか、記念 T シャツ、各事業の際に参加者に配布していただく記念品の作成などに着手した。



設立 50 周年記念バナーと記念 T シャツ



2. 地域活動支援プログラム（広域的もしくは公益性の高い事業の実施支援）

社会的課題に応えるキャンプが広く行われるためには、地域に密着した活動が各地で行われ、広くキャンプに対する認知を高めることが欠かせない。そのような活動の普及を進めるため、地域ブロックを中心に行われた 5 つの事業について支援を行った。

団体名	日程	事業名	参加数
北海道・東北ブロック	11月28日(土) ～29日(日)	スキルアップセミナーⅢ	25
中国・四国ブロック	9月5日(土) ～6日(日)	山と海のコラボレーション自然体験活動	85
九州・沖縄ブロック	11月21日(土) ～22日(日)	第4回九州キャンプ大会 in 福岡	70
一般社団法人 宮城県キャンプ協会	8月29日(土) ～30日(日)	家族で防災エコキャンプ！ ～子ども防災リーダーになろう～	60
石川県キャンプ協会	9月6日(日)	いしかわキャンプフェスティバル	120



家族で防災エコキャンプ（宮城県）



いしかわキャンプフェスティバル（石川県）

3. キャンプアカデミー2015

キャンプとキャンプの周辺領域に関わることがらを学ぶ機会として、「キャンプ指導者のためのリベラルアーツ 2015～子どものころ～」と題したキャンプアカデミーを開催した。(第2回目は講師都合により中止)

また、連動企画として「CAMPING 168」に「特集：子どものころ」を掲載した。

第1回「子どもの発達過程」

講師：神谷明宏氏（聖徳大学）

日程：2月11日(木・祝)

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

参加者：23人

第2回「子どものころの問題」（中止）

講師：工藤亘氏（玉川大学）

日程：2月20日(土)

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

4. グリーフキャンプ（悲嘆状態にある子どもを対象としたキャンプ）

2011年度から日本キャンプ協会、日本YMCA同盟、朝日新聞厚生文化事業団の三者で行ってきたグリーフキャンプは、秋の「グリーフキャンプ・リユニオン」と報告書の発行をもってひとまず終了となった。今後は、子どものグリーフサポートを行う団体等との協働を模索したいと考えている。

(1) グリーフキャンプ・リユニオン

これまでのキャンプの参加者、家族、スタッフを対象にリユニオン（同窓会）を開催し、キャンプの思い出やそれぞれの近況を語り合った。

日程：10月31日(土)～11月1日(日)

会場：秋保グランドホテル（宮城県仙台市）

参加者：19人

(2) 「Gift for the Next 100 Years 2014.4.1-2016.3.31 グリーフキャンプ報告書」の作成

2014年度、2015年度の活動をまとめた報告書を発行した。あわせてPDF版をWEBサイトで公開し、多くの人を読めるようにした。

発行数：700部（別途PDF版をWEBサイトで公開）

※PDF版：www.camping.or.jp/201603griefcamp.pdf

本事業は、朝日新聞厚生文化事業団に寄せられた寄附金を用いて実施しました。

5. 出会いと体験の森へ事業（他団体と共同で行う事業）

日本キャンプ協会、日本 YMCA 同盟、東京 YWCA、ボーイスカウト日本連盟、ガールスカウト日本連盟という「人を育てるキャンプ」に携わる団体が協力して「出会いと体験の森へ事業」を行っている。第5期は、「森のとしょかん」をテーマに本とふれあう事業を行った。

※この年度の事務局は公益社団法人日本キャンプ協会が担当

日 程：10月25日(日) ※事前研修会を10月19日(月)に実施

テーマ：絵本の扉を開けよう「森のとしょかん」であそぼう！

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

主 催：「出会いと体験の森へ」実行委員会

協 力：公益社団法人シャンティ国際ボランティア会

参加者：およそ150人

※オラクル有志の会ボランティア基金及び子どもゆめ基金助成対象事業

※報告書は実行委員会 WEB サイトで公開 <http://deai.camping.or.jp/reports.html>



キャンプアカデミー2015



グリフキャンプ報告書(2014-2015)



出会いと体験の森へ 絵本の扉を開けよう「森のとしょかん」であそぼう！

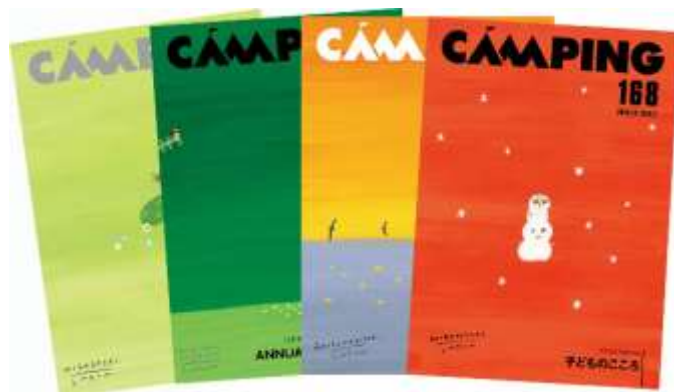
6. キャンプに関連する情報の発信及び相談業務

会報誌「CAMPING」を発行するほか、WEB サイトやメールなどを活用してキャンプに関連する情報の発信に努めた。また、キャンプインフォメーションセンターを運営し、一般のキャンプ愛好者等の相談に応じた。

(1) 会報誌「CAMPING」の発行

キャンプに関する情報やキャンプの現場で役立つさまざまなスキル、本会の事業内容等を掲載した会報誌「CAMPING」を隔月で発行した(各号約 13,000 部)。

号数	特集
164	アレルギー
165	2014 年度事業・決算報告
166	キャンプとうた
167	世界のカンファレンス
168	子どものころ
169	本との出会い



(2) WEB サイトを通じた情報発信

本会や各都道府県協会、関連団体の実施する事業の告知や報告、本会の団体情報などの各種情報を WEB サイト (www.camping.or.jp) を通じて提供した。

閲覧者数：のべ 174,709 人

(3) メールマガジン「CAMPING News」の発行

会員等の活動への参加機会を増やすことを目的に、BUC 事業を中心とする講習会やイベントの情報、助成金情報などを提供するメールマガジンを発行した。

発行回数：17 回 (年末年始を除く 3 週毎の金曜日発行)

送信数：約 2,500 通 (発行時により変動・別途 PDF 版を WEB サイトで公開)

(4) キャンプインフォメーションセンターの運営

キャンプに関する相談窓口として、電話や電子メールによる相談に応じたほか、都道府県キャンプ協会を通じた指導者派遣、マスコミ等の取材対応を行った。

7. 都道府県キャンプ協会の広報活動の支援

都道府県キャンプ協会が会員等への情報提供を支援するためのサービスを提供した。

(1) 会報同封サービス

各都道府県協会が会員に対する情報発信を行いやすくなるように、都道府県協会の会報等を「CAMPING」に同封して発送するサービスを提供し、各協会の広報活動を支援した。

利用した都道府県協会の数 23 協会 のべ発送点数 45,091 点

(2) メールアドレス及び WEB サーバーの提供

各都道府県協会にメールアドレスと WEB サーバーを提供し、インターネットを利用した情報提供、情報交換を容易に行えるよう支援した。

8. 国外の情報の収集と提供

キャンプに関連する情報の収集を行うとともに、国際キャンプ連盟メンバーを中心に情報交換を深め、適宜、CAMPING やメールマガジン、Monthly Report 等を通じて情報提供を行った。

アメリカキャンプ協会年次大会

日 程：2月9日(火)～2月12日(金)

会 場：アトランタ・ヒルトン (アメリカ・ジョージア州)

参加数：約 1,200 人 (日本からの参加者 5 人)

9. 安全啓発キャンペーン

野外での安全について広く一般の方々にも考えていただく機会とするため、安全標語の募集を行った。今年は「キャンプの安全いろはかるたをつくろう！」として、「う」から「て」までの 11 文字を頭文字とした標語を募集した。日本キャンプ協会設立 50 周年となる 2016 年には、キャンプの安全いろはかるたが完成する予定。

応募点数：1,762 点

最優秀作品：「声かけが何より大事な安全対策」 笠原りおさん

優秀作品：「笑顔のまま キャンプが終わり 帰途につく」 柳谷 益弘さん

10. 自然体験活動の場の提供と施設の運営【静岡県立朝霧野外活動センター】

9年目を迎えた朝霧野外活動センターの管理・運営は、指定管理の第3期5年間の1年目として、着実な運営を行うと同時に、新たなことながらも積極的に取り組んだ。8年間で積み重ねてきた施設管理・運営のノウハウは利用者の満足度にもつながり、利用者数、利用団体数ともに昨年より増加し、指定管理者外部評価委員会でも非常に高い評価を受けることができた。

また、環境に配慮するとともに、運営の一層の健全化を図るため、体育館等の照明設備を更新し、より一層の電力使用量削減に努めた。

(1) 受け入れ事業の支援

静岡県内を中心として東京、神奈川、千葉、埼玉、山梨及び愛知等周辺都県の団体も含め、幅広い地域の学校・青少年団体・青少年指導者団体・企業等の利用受け入れを行った。また、それらの団体の利用を効果的にサポートできるよう、実地踏査や打合せを通じた利用団体との十分なコミュニケーションの確保に努めた。

利用者支援のためには職員のスキル向上が不可欠であり、職員研修を充実させるとともに、救急法（Medic First Aid®）講習会の開催や静岡県青少年教育施設協議会合同職員研修会への参加等を通じて、スタッフひとりひとりのスキルアップを図った。

(2) プログラムの整備

昨年度に実施した各活動のブラッシュアップを受けて、今年度はそれらの定着を図った。特に、野外活動を行う際の基本である地図を読むことを含む活動として、ハイキング、サイクリング及びナビゲーションスポーツ等を利用団体に積極的に勧めたところ、多くの団体に採用していただくことができた。また、自然観察の教材の充実を図るために、朝霧野外活動センターに生息するトンボ、チョウ及びスミレについて調査を行い、その結果をスライドにまとめて、利用団体の求めに応じていつでも職員が説明できるようにした。

また、野外活動を行うついでにゴミ拾いをして、その様子をSNSにアップしていく「走れば山が美しくなる！」運動を展開し、主催事業の参加者だけでなく、他利用団体の協力も得て、年間を通じて継続的な活動を実施することができた。なお、この活動は(株)静岡スバル及び(株)グリーンホスピタリティフードサービスの協賛を受けて実施した。

(3) 地域との協働

朝霧野外活動センターに隣接する富士丘地区をはじめ、近隣地域や施設との協力関係をさらに深めることを心掛け、地域の行事に積極的に参加しながらセンターが実施する各種事業への理解と協力を仰いだ。また、昨年度より実施している、近隣地域の子どもたちに放課後の居場所を提供する「あさぎりっ子スケートクラブ」について、対象とする小学校の学区を2つから5つに拡大し、開催日も増やして実施した。毎回30人程度の参加があり、地域の人々との日常的なつながりをさらに深めることができた。

青少年自然体験事業

事業名	日程	対象	参加数
朝霧高原サマーキャンプ ～つながろう富士山～	7月5日(日)	小学校5年生～中学校3年生	103
	8月6日(木)		44
	～8月14日(金)		

野外教育指導者養成事業

事業名	日程	対象	参加数
野外活動プログラム実習	4月10日(金) ～4月11日(土)	利用団体の担当者・指導者	92
	11月13日(金) ～11月14日(土)		13
長期キャンプ指導者 養成講習会	6月13日(土) ～6月14日(日)	専門学校生 短期大学生 大学生	9
	7月11日(土) ～7月12日(日)		
	8月6日(木) ～8月14日(金)		
	10月17日(土) ～10月18日(日)		
野外教育指導者養成講習会	2月5日(金) ～2月7日(日)	野外教育に興味のある人、 青少年団体の指導者、教育関係者	29

施設開放事業

事業名	日程	対象	参加数
朝霧カーニバル	11月1日(日)	一般	1,448
スケートフェスティバル in あさぎり	11月1日(日)・3月6日(日)	家族・小グループ	255
プラネタリウム一般開放	原則毎月第3日曜日	家族・小グループ	2,885
スケート一般開放	11月～3月の原則日曜日	家族・小グループ	3,476

県民自然体験事業

事業名	日程	対象	参加数
ちょっといい春感じませんか	4月18日(土)～4月19日(日)	家族・小グループ	126
朝霧高原トレイルランニングレース	9月5日(土)～9月6日(日)	一般	727
すてきな秋をあなたに	10月3日(土)～10月4日(日)	家族・小グループ	118
オリエンテーリング in 朝霧	11月21日(土)～11月22日(日)	家族・小グループ	293
スケートキャンプ	12月11日(金)～12月13日(土)	家族・小グループ	48
	1月15日(金)～1月16日(土)		47
	2月19日(金)～2月20日(土)		53
	3月4日(金)～3月5日(土)		53
223(ふじさん)ウォーキング	2月21日(日)	家族・小グループ	129
あさぎりっ子スケートクラブ	11月～3月の水曜日・木曜日	近隣の小学生	427

社会問題に対応した事業

事業名	日程	対象	参加数
ホッとキャンプ	3月1日(火)～3月4日(金)	引きこもりがちな青少年	15

その他受託事業

事業名	日程	対象	参加数
静岡子ども体験フェスティバル	11月1日(日)	一般	400

利用者数の推移（施設全体）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2013	3,101	8,633	8,525	9,541	8,610	9,513	6,433	7,282	3,789	2,771	1,749	4,712	74,659
2014	2,895	6,979	8,491	9,449	8,607	9,261	6,853	7,927	2,926	2,396	2,255	5,624	73,663
2015	2,689	8,363	6,790	11,772	9,439	10,002	6,333	5,896	3,272	2,751	2,721	5,121	75,149
前年度比	-206	1,384	-1,701	2,323	832	741	-520	-2,031	346	355	466	-503	1,486

本館棟

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2013	2,894	5,538	5,118	6,081	4,855	5,212	5,194	5,921	3,193	2,223	1,749	3,988	51,966
2014	2,709	4,129	5,457	6,049	5,061	5,002	5,154	6,547	2,367	1,905	2,095	4,742	51,217
2015	2,636	5,007	4,183	7,109	4,506	5,754	5,190	5,657	2,793	2,583	2,396	4,598	52,412
前年度比	-73	878	-1,274	1,060	-555	752	36	-890	426	678	301	-144	1,195

キャンプ場

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2013	207	3,095	3,407	3,460	3,755	4,301	1,239	1,361	596	548	0	724	22,693
2014	186	2,850	3,034	3,400	3,546	4,259	1,699	1,380	559	491	160	882	22,446
2015	53	3,356	2,607	4,663	4,933	4,248	1,143	239	479	168	325	523	22,737
前年度比	-133	506	-427	1,263	1,387	-11	-556	-1,141	-80	-323	165	-359	291

利用団体数の推移（施設全体）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2013	16	53	50	78	60	53	35	36	51	42	30	65	569
2014	16	51	60	67	63	49	38	40	46	49	44	69	592
2015	14	54	53	78	68	70	39	46	53	53	43	74	645
前年度比	-2	3	-7	11	5	21	1	6	7	4	-1	5	53

本館棟

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2013	12	33	27	49	38	26	26	31	43	35	30	55	405
2014	13	32	35	41	40	26	26	36	37	41	41	58	426
2015	11	34	27	50	40	38	27	42	46	48	37	64	464
前年度比	-2	2	-8	9	0	12	1	6	9	7	-4	6	38

キャンプ場

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2013	4	20	23	29	22	27	9	5	8	7	0	10	164
2014	3	19	25	26	23	23	12	4	9	8	3	11	166
2015	3	20	26	28	28	32	12	4	7	5	6	10	181
前年度比	0	1	1	2	5	9	0	0	-2	-3	3	-1	15

平成 27 年(2015)度 静岡県立朝霧野外活動センター指定管理者外部評価委員会評価結果

総合評価 A [9段階評価 A+, A, A-, B+, B, B-, C+, C, C]

評価項目		評価ポイント		
		26年度	25年度	24年度
評価の総括		A	A	A
項目別評価	①少年教育施設として安全・安心・快適に利用できる施設の管理	A	A	A
	②少年教育施設として安全・安心・快適に利用できる施設の運営	A	A	A
	③青少年の健全な育成を図る事業の運営	A	A	A
	④学校利用への適切な対応	A	A-	A-
	⑤青少年教育施設としての目的にあった活動の展開	A	A-	A

(参考)

9段階評価ポイント記号の意味					
A	十分満足できる	B	おおむね満足できる	C	努力を要する
* 心象としてABCに対して上回るか下回るかにより、必要に応じて+-の付加記号を付ける。					



11. 都道府県キャンプ協会へのキャンプ用品・用具の配布

安全で楽しいキャンプを普及させるため、(一財)日本宝くじ協会より助成を受けて全国の都道府県キャンプ協会に対してテントの配布を行った。これらのテントは都道府県協会が主催する各種講習会、指導者研修、キャンプなどで幅広く活用されるとともに、都道府県協会を通じて、加盟団体などが行うイベント等にも貸し出しされ、有意義に使用された。

配布件数：33 都道府県キャンプ協会 5種 81張



よりよいキャンプを実現する指導者養成の事業

キャンプの有用性・有効性を最大限に発揮させ、人々の心身の発展に寄与することのできるキャンプ指導者の養成は、本会発足以来の大切な事業である。

この年度は、指導者養成、旧資格から新資格への移行措置を実施するとともに、現在の指導者養成体制に合わせたキャンプディレクター養成テキストの改定作業を開始した。また、有資格者のブラッシュアップをいっそう進めるため、BUC 事業の承認・実施に加え、キャンプ指導をより深く学ぶディレクター・ゼミナールを実施した。

1. 指導者養成講習会

キャンプインストラクター養成講習会（課程認定 A・B・C 団体による実施）

都道府県キャンプ協会(A 団体)による養成数	619
課程認定校・社会教育団体等(B・C 団体)による養成数	1,893
合計	2,512

- ・ 3,000 人の養成目標に対し 2,512 人の養成が行われ、達成率 83.7%であった。
- ・ 昨年の 2,700 人と比較し、7.4%の減であった。

キャンプディレクター2 級養成講習会（A 団体による実施）

主催県	日程	受講数	会場
福島県	10月10日(土)～12日(月祝)	7	国立磐梯青少年交流の家(福島県猪苗代町)
東京都	11月21日(土)～23日(月祝)	11	ヒゲッチキャンプ場(埼玉県児玉郡)
神奈川県	11月21日(土)～23日(月祝)	9	県立足柄ふれあいの村(神奈川県南足柄市)
群馬県	1月9日(土)～11日(月祝)	25	県立東毛青少年自然の家(群馬県太田市)
奈良県	1月9日(土)～11日(月祝)	6	国立曾爾青少年自然の家(奈良県曾爾村)
福岡県	1月29日(金)～31日(日)	17	北九州市立玄海青年の家(福岡県北九州市)
大阪府	2月5日(金)～7日(日)	5	吉野宮滝野外学校(奈良県吉野町)

キャンプディレクター2 級養成講習会（B 団体による実施）

団体名	受講数
北翔大学	14
頌栄短期大学	11
国際自然環境アウトドア専門学校	2
常葉大学	2
桃山学院大学	1
仙台大学	1
大阪体育大学	4

キャンプディレクター1級養成講習会

日程	受講数	会場
11月13日(金)～11月15日(日)	16	国立オリンピック記念青少年総合センター

キャンプディレクター1級検定会

日程	受検数	会場
1月16日(土)～1月17日(日)	19	国立オリンピック記念青少年総合センター
2月20日(土)～2月21日(日)	7	神戸市青少年会館(兵庫県神戸市)

2. 指導者の審査・認定及び更新

資格申請者の審査・認定

認定日	キャンプ インストラクター		キャンプ ディレクター2級 ^{※1}		キャンプ ディレクター1級	
	受験者数	合格者数	申請者数 ^{※2}	合格者数	申請者数	合格者数
4月22日			9(1:0)	9	5 ^{※3}	5
6月16日			8(2:4)	8	3 ^{※3}	3
7月16日			1(1:0)	1		
8月12日			4(3:0)	4		
9月23日			2(2:0)	2		
11月7日			2(0:2)	2		
11月26日			5	5		
12月12日			6(2:0)	6		
12月25日			6	6		
2月3日			14(1:1)	14	12	12
課程認定団体分	2,512	2,512				
合計(人)	2,512	2,512	57(12:7)	57	20	20

※1 キャンプディレクター2級の数字には、2級プログラムディレクター及び2級マネジメントディレクターからの移行分を含む。

※2 括弧内の数字は、D2移行者数(PDより移行:MDより移行)

※3 2014年度合格者の申請分

指導者資格の更新

キャンプ インストラクター	キャンプ ディレクター2級	キャンプ ディレクター1級	合計(人)
4,545	1,647	1,108	7,300

※ 2014年度 CI:4,803 D2:1,730 D1:1,149 合計7,682

課程認定団体の審査・認定

審査会日程	新規課程認定団体名
2015/04/10	B団体 大原簿記公務員専門学校 大分校（大分県）
2015/04/30	B団体 大原スポーツ公務員専門学校 松本校（長野県）
2015/05/15	B団体 大原簿記情報ビジネス医療福祉保育専門学校（群馬県）
2015/06/25	B団体 大原スポーツ公務員専門学校 盛岡校（岩手県）

課程認定団体数

A団体	B団体	C団体
46	116	6

3. ディレクター・ゼミナール 2015

キャンプディレクター有資格者を主たる対象とする、グループワークや討論を交えた研修会を3会場で実施した。なお、本事業はキャンプディレクター2級資格の改変にともなう2級マネジメントディレクターからの移行のための集合講習と位置づけた。

ディレクター・ゼミナール 2015「キャンプを仕事にする」

日 程：第1回 10月16日(金)

第2回 10月27日(火)

第3回 11月4日(水)

講 師：佐藤初雄さん（国際自然大学校）・林健児郎（日本キャンプ協会）

参加者：のべ36人

4. 課程認定団体研修会

課程認定団体指導者養成担当者を対象に、カリキュラムにのっとった指導者養成が行えるよう研修を実施した。この年度は、課程認定団体で養成が行えるようになったキャンプディレクター2級養成に重点を置いた説明を行った。

日 程：5月30日(土)

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

参加者：43人（33団体）

5. 指導者養成のためのテキストの発行

指導者養成に用いるテキスト「キャンプ指導者入門」「キャンプディレクター必携」の販売管理を行った。

6. 都道府県キャンプ協会指導者研修会

キャンプ普及の直接的な担い手である都道府県キャンプ協会の活動を支援する目的で研修会を実施した。『都道府県キャンプ協会運営のてびき』を発行・配布したほか、総会報告、設立 50 周年記念事業に関する説明などを行った。

第 1 回 日 程：5 月 31 日(日)
会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）
参加者：70 人

第 2 回 日 程：3 月 13 日(日)
会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）
参加者：77 人

7. 各都道府県キャンプ協会の実施する BUC 事業の承認・支援

スキルアップと交流の機会として本会及び都道府県協会が実施する事業のうち、所定の条件を満たすものを BUC(Brush Up & Communication)事業として認定し、必要に応じて事業実施のための支援を行った。

年度	BUC 事業数	参加登録者数	実施事業協会数※
2015	132	1,454	42
2014	128	1,480	44
2013	132	1,548	45

※実施協会数には日本キャンプ協会を含む



キャンプの質の向上につながる研修及び調査研究の事業

キャンプの質を高め、普及を進めるためには、新たな取り組みについて知ったり、専門的な研究結果に学んだりすることもまた重要である。

この年度は、キャンプの研究や実践を持ち寄り、学び合う機会を複数の異なる形式で設け、重層的な情報提供が行われるように努めた。

1. Camp Meeting in Japan 2015 ～第 19 回日本キャンプ会議～

国内外のキャンプの実践報告や研究発表を通じて、指導者同士で有意義なキャンプ情報の共有が図れるよう交流の場として開催した。この年度は、全体会としてキャンパーである子どもにもキャンプの感想などを聞く「子どもシンポジウム」を行い好評を得た。

日 程：5月30日(土)

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

発表者：26人

参加者：93人

内 容

[口頭発表] 14題

(敬称略)

わが国におけるアウトワード・バウンドを基礎とした冒険教育の動向についての一考察～文献による調査を通して～（西島大祐）
災害ボランティアとキャンプ（木下史典）
Day Camp の可能性～1日の中で子どもたちに主体をあずける～（加藤綾音）
民間野外教育事業者におけるヒヤリハットの分析（稲松謙太郎）
米国キャンプ・オーアトカ（Camp O-AT-KA）における日課プログラムの意義～余暇教育としてのキャンプ・プログラム～（高橋伸）
スキーキャンプのヒヤリハット（砂山真一）
北海道教育大学岩見沢校における指導者養成（濱谷弘志）
キャンプにおける安全教育が参加者の危険認知能力の向上に及ぼす影響（青木康太郎）
キャンプが児童のアサーション行動に及ぼす影響（久田竜平）
大学の授業としての、場に注目したカナダ厳寒期の多国籍遠征（高野孝子）
登山におけるストレスコーピングに関する研究（高橋宏斗）
あかぎワールドコミュニティ～余暇教育としてのキャンププログラム～（落合哲郎）
スポーツチームに対する ASE プログラム導入が集団凝集性に及ぼす影響～チーム所属年数に着目して～（徳田真彦）
自然体験で地域づくり まえばし・マイはし・プロジェクト（山田裕久）
WEA 野外指導者養成コースにおける野外指導スキルの発達（岡村泰斗）
「海ガキ・山ガキになろう！2014 夏」実践報告（野木俊宏）

[キャンプのあれこれ発表] 3題

続々・キャンプで使える「手話」表現～目で見てわかるコミュニケーション～ (針ヶ谷雅子)
ハンディ気象観測ツールによるアウトドアリスクマネジメント・実践編 (渡辺直史)
工作体験(お箸づくり)を通じての安全で正しいナイフの使い方～ビクトリノックス工作イベントサポートプログラム～ (水谷理)

[ポスター発表] 4題

公園における親子を対象とした自然体験活動プログラムの可能性 (大友あかね)
キャンプ体験が参加児童の道徳性に及ぼす影響 (中村綱希)
静岡県立朝霧野外活動センターの利用状況の推移とアンケートから施設の可能性と課題を探る (針ヶ谷雅子)
Café de CAMP の作り方～参加者とつくる空間～ (五月女真弓)

[全体会] 子どもシンポジウム

ろう(聾)の子どものためのキャンプ～デフキッズキャンプ～

被災地域の子どものためのキャンプ～南会津アドベンチャーキャンプ～

2. 定期刊行物「キャンプ研究」

キャンプの実践報告やキャンプに関する研究報告を発表する場として「キャンプ研究 第19巻」を発行した。キャンプディレクター資格保有者に配布するとともに、PDF版をWEBサイトで公開し、多くの人を読めるようにした。

発行日：2月15日(月)

発行部数：3,500部 (別途PDF版をWEBサイトで公開)

※PDF版 www.camping.or.jp/JJCS192015.pdf



研究論文	不登校中学生を対象とした継続型キャンプの効果に関する検討～社会教育施設と適応指導教室の連携事例～	築山泰典ほか
	テーマパークでの就業体験を利用した体験教育の試み～KidZania 就業体験と野外教育の融合～	甲斐知彦ほか
	キャンプにおける安全教育が参加者の危険認知能力の向上に及ぼす効果に関する研究	青木康太郎ほか
実践報告	民間野外教育事業者におけるスキーヒヤリハットの分析	稲松謙太郎ほか
	高校体育科キャンプ実習報告～スポーツ選手の基礎力を育むことを目指して～	三島 和康
	長期キャンプの意義を改めて考える「チャレンジキャンプ2015～リヤカーで小豆島一周110kmの旅～」の事例から	徳田真彦ほか
	くしろアウトドアキッズスクール2015冒険の旅の実践	森健太郎ほか
	キャンパス近くの自然を活かした活動及び重層的な指導システム	渡辺亮ほか

3. Café de CAMP

若手キャンプ指導者を中心に、講師を囲んで意見交換をしたり、アクティビティ体験をしたり、相互に事例発表等を行ったりする、交流と学び合いの場「Café de CAMP」を昨年に引き続いて実施した。

参加者の要望や提案を取り入れた多様な内容の事業を行った。

回	日程	テーマ	参加者
1	6月6日(土)	グランピング体験キャンプ	12
2	8月22日(土)	感動が伝わる アウトドア&キャンプのデジカメ撮影術	11
3	9月11日(金)	お坊さんとおしゃべり	9
4	11月7日(土)	パッケージドプログラムって何？	9
5	12月19日(土)	AIDS / HIV を考える	7
6	1月23日(土)	日本のキャンプと世界のキャンプ	13

(第1回は城南島海浜公園で、第2回以降は国立オリンピック記念青少年総合センターで実施。)

4. グリーフキャンプに関する調査研究とその周知に関する事業

(1) 先行事例の研究と情報の共有

北米を中心に広く行われているグリーフキャンプについて学ぶため、キャンプやキャンプ運営に関する会議に参加したほか、資料収集を進め、会報誌で情報の共有を図った。

El Tesoro de la Vida 視察

2014年度に引き続き、Camp Fire USA First Texas Council が実施するグリーフキャンプ El Tesoro de la Vida に参加した。この年度は主にティーンエイジャーの子どもたちの様子に特に注目して視察を行った。

日 程 : 7月26日(土)～8月2日(土)

訪問先 : Camp El Tesoro(米国テキサス州)

参加者 : 1人

資料収集と文献調査

グリーフキャンプの先行事例ならびに子どもを対象としたグリーフケアに関する資料文献の収集と調査を行った。

法人事務

本会の事業が適正に行われるよう、また都道府県キャンプ協会及び関係団体との円滑な協働が図れるよう、必要な日常業務を行った。

1. 諸会議

会議名	回数	日程・会場等																					
総会	2	5月30日・3月13日																					
理事会	3	5月16日・3月12日																					
監査	1	5月14日																					
執行理事会	7	4月22日・6月16日・7月16日・9月23日・11月7日・12月25日 2月3日																					
ブロック会議	8	<table border="0"> <tr> <td>全ブロック</td> <td>5月31日・3月14日</td> <td>東京 (NYC)</td> </tr> <tr> <td>中国・四国ブロック</td> <td>9月5日</td> <td>島根県大田市</td> </tr> <tr> <td>北海道・東北ブロック</td> <td>10月17日</td> <td>青森県弘前市</td> </tr> <tr> <td>関東ブロック</td> <td>10月31日</td> <td>茨城県常陸太田市</td> </tr> <tr> <td>中部・北陸ブロック</td> <td>11月14日</td> <td>富山県氷見市</td> </tr> <tr> <td>近畿ブロック</td> <td>11月14日</td> <td>和歌山県和歌山市</td> </tr> <tr> <td>九州・沖縄ブロック</td> <td>11月22日</td> <td>福岡県星野村</td> </tr> </table>	全ブロック	5月31日・3月14日	東京 (NYC)	中国・四国ブロック	9月5日	島根県大田市	北海道・東北ブロック	10月17日	青森県弘前市	関東ブロック	10月31日	茨城県常陸太田市	中部・北陸ブロック	11月14日	富山県氷見市	近畿ブロック	11月14日	和歌山県和歌山市	九州・沖縄ブロック	11月22日	福岡県星野村
全ブロック	5月31日・3月14日	東京 (NYC)																					
中国・四国ブロック	9月5日	島根県大田市																					
北海道・東北ブロック	10月17日	青森県弘前市																					
関東ブロック	10月31日	茨城県常陸太田市																					
中部・北陸ブロック	11月14日	富山県氷見市																					
近畿ブロック	11月14日	和歌山県和歌山市																					
九州・沖縄ブロック	11月22日	福岡県星野村																					

設立 50 周年記念事業関連委員会・タスクチームミーティング

会議名	回数	日程・会場等
50周年記念事業組織委員会	1	10月12日
実行委員会	2	5月30日・3月12日
研修・研究部会	2	6月14日・11月8日
白書部会	2	6月23日・1月19日
イベント部会	3	9月25日・12月5日・3月19日
ホスピタリティ部会	2	11月26日・3月1日
ICDC 部会	1	11月23日

運営委員会・タスクチームミーティング

会議名	回数	日程・会場等
研修・普及事業委員会	2	6月4日・10月26日
CAMPING 編集タスク	3	7月3日・12月11日・3月18日
指導者養成委員会	3	6月15日・10月21日・2月15日
キャンプミーティングタスク	2	(2014年10月7日)・4月7日
地域連携委員会	2	4月12日・12月12日
総務委員会	7	4月22日・6月16日・7月16日・9月23日・11月7日 12月25日・2月3日（執行理事会と同時開催）

その他の会議

会議名	回数	日程・会場等
事務局会議	-	随時
出会いと体験の森へ 実行委員会	7	(2月16日)・4月13日・9月9日・10月5日・12月16日 2月1日・2月24日
グリーンフキャンプ 組織委員会	1	3月25日
グリーンフキャンプ 実行委員会	1	4月16日

※ 特に表記のない場合、東京・国立オリンピック記念青少年総合センター(NYC)で実施

静岡県立朝霧野外活動センター関係

会議名	回数	日程・会場等
所長会	10	4月3日・5月19日・6月18日・7月7日・9月9日・10月6日 11月5日・12月15日・2月5日・3月8日
主席会	4	4月16日・6月23日・10月20日・2月17日
県庁合同会議	1	4月3日
安全対策委員会	3	6月18日・7月14日・3月23日
外部評価委員会	2	8月3日(委員視察)・3月11日(評価伝達式)
東海北陸地区青少年 教育施設協議会研修会	1	11月12日～13日
静青施協合同職員研修会	1	1月14日～15日
地域懇談会	1	11月13日
食堂定期協議会	2	7月18日・3月20日

2. Monthly Report

理事、監事、運営委員、都道府県キャンプ協会事務局及びその運営に関わる方を対象に、本会の運営状況をはじめキャンプに関連する情報を提供することを目的に Monthly Report を月1回（計12回）発行した。

3. 都道府県キャンプ協会を対象としたアンケート

今後の協会運営の参考とするため、都道府県キャンプ協会の運営状況、役員構成、課題などを把握するためのアンケートを各都道府県キャンプ協会の事務局長を対象に実施した。

4. ビジョン・ミーティング

翌年に設立50周年を控え、今後の日本キャンプ協会のあり方を考えるための意見を聞く機会として、役員、運営委員に参加を呼びかけてビジョン・ミーティングを開催した。ここで出されたさまざまな意見、アイデアは、2016年度に会長直轄のタスクチームを設けて検討し、50周年記念式典等で発表する予定としている。

日程：第1回12月12日(土) 第2回2月29日(月)

参加者：役員・運営委員のべ32人

5. 各種団体等への協力・共催・後援

協力・後援、協賛

団体名	事業名	種別
宮城県復興支援センター	国際交流イングリッシュキャンプ	後援
(公財)横浜市体育協会	平成 27 年度アウトドアリーダー講座	後援
(公財)東京 YWCA	青少年活動・子どもにかかわるリーダーのためのリーダーズ・トレーニング	後援
高知県キャンプ協会	2015 年度キャンプインストラクター養成講座	後援
(公財)修養団	S Y D ボランティア奨励賞 (第 10 回)	後援
(公財)修養団	S Y D きらめきメッセージ全国コンクール 2015	後援
(公財)修養団	青年ボランティア・アクション in フィリピン	後援
(公財)修養団	幸せの種まきキャンペーン (出張講座/課外授業)	後援
(公財)修養団	子ども自然体験キャンプ	後援
(公財)修養団	東日本大震災仮設住宅訪問 青少年ふれあいボランティア	後援
(公財)修養団	全国青年ボランティア・アクション in 福島	後援
(公財)修養団	全国青年ボランティア・フェスティバル	後援
岩手県キャンプ協会	第 42 回キャンプインストラクター養成講習会 平成 27 年度親子キャンプ	後援
(公財)日本教育科学研究所	平成 27 年度アウトドアゲーム指導法講習会	後援
島根県キャンプ協会 (中国・四国ブロック)	山と海のコラボ自然体験活動	後援
(NPO)東京都キャンプ協会	東京キャンプフェスティバル 2015	後援
(公財)日本サイクリング協会	バイク東京 2015	後援
(公財)日本サイクリング協会	Mt. FUJI エコサイクリング 2015	後援
(一社)宮城県キャンプ協会	『家族で防災エコキャンプ』～キャンプのチカラを生かして子ども防災リーダーを育てる～	後援
(公財)日本レクリエーション協会	第 69 回全国レクリエーション大会 in ながの	後援
(NPO)環太平洋学生キャンプ	第 31 回環太平洋学生キャンプ	後援
福岡県キャンプ協会	福岡県キャンプ指導者意見交換会	後援
(一社)宮城県キャンプ協会	はっちやれキャンプ 2015	後援
(公財)関西テレビ青少年育成事業団	2015 年度リスクマネジメント・セミナー	後援
秋田県キャンプ協会	AKITA ファミリーキャンプフェスティバル	後援
石川県キャンプ協会	いしかわキャンプフェスティバル	後援
(一社)宮城県キャンプ協会	初秋のエコでランタンナイト	後援
みやぎ自然体験フォーラム実行委員会	アウトドアフォーラム in みやぎ ～子どもからシニアまで、みんなきてけさいん～	後援
(株)プロジェクトアドベンチャージャパン	PAJ20 周年記念シンポジウム「さあ、なにしよう？」	後援
福島県キャンプ協会	キャンプインストラクター養成講習会	後援
福岡県キャンプ協会 (九州・沖縄ブロック)	第 4 回九州・沖縄キャンプ大会 in 星野村	後援
東北・北海道ブロック	スキルアップセミナーⅢ	後援
福岡県キャンプ協会	福岡県キャンプミーティング 2016 「安全にキャンプをするための環境づくり！」	後援
宮城県キャンプ協会	スノチャレ (スノーチャレンジ) キャンプ 2016	後援
秋田県キャンプ協会	チャレンジスノウキャンプ 2016	後援

職員の派遣

日程	団体	内容	派遣職員
5月2日～4日	石川県キャンプ協会	キャンプインストラクター養成講習会	金山竜也
7月2日～ 9月25日(計5回)	中央青少年団体連絡協議会	中青連ラウンドテーブル実行委員会	五月女真弓
7月30日	文部科学省 生涯学習政策局	土曜学習応援団 子ども霞が関見学デー	秋山千草 五月女真弓
3月28日～30日	子どもグリーンサポートステーション	グリーンキャンプ	前田將太

6. 日常法人業務

円滑な事業推進のため、以下の日常業務を行った。

会員管理／会費収納／事業方針・計画・予算の管理／日常経理事務／収益事業の運営管理／助成金事務／人事管理／諸規定(程)の整備／内閣府への各種報告／他団体との渉外窓口

本報告書内の法人名・各人の役職等は、各事業実施当時のものです。

CAMPING AWARD 2015 受賞者

霜觸 寛 氏

北海道キャンプ協会顧問

霜觸寛さんは前会長時代、協会運営強化のため事務局体制の整備を行うとともに、会報の発行、キャンプ繁忙期を除く毎月なんらかの事業や会議などを行うことで、日常的な連携を強め、開かれた協会運営を進めてこられました。

事業運営にあたって、一定の経験を積んだ次世代人材を積極的に育成、登用し、若手指導員による「若手ミーティング」を構想、広報部、啓発部、養成部からなる会務運営体制の整備を図り、今期、役員体制の刷新とともに新たな運営体制をスタートさせました。

これらの取り組みにより、会員数の増強が果たされたばかりでなく、新たな事業感覚を持った世代が大きな役割を持たせることで、協会活動の安定、継続に多大な貢献を果たされました。

(推薦団体：北海道キャンプ協会)

株式会社キッツアンドスマートエコライフ

株式会社キッツアンドスマートエコライフは、2007年7月17日に設立され、子どもたちに豊かな自然体験活動を提供しています。会員登録した子どもたちを対象に、野山探検、ものづくり、野外料理などを楽しみながら一日中どろんこになって自然を満喫する活動を月に1～2回のペースで行っているほか、年間を通じてキャンプなど、さまざまな活動を行っています。

東日本大震災の被災児童を対象とした当協会主催の「被災地支援リフレッシュキャンプ」では、代表取締役が当協会の理事であることもあり、全面的な協力を得ることができました。会社の若手をキャンプ実施スタッフとして派遣し、当協会メンバーとともに夏の「はっちゃれキャンプ」および冬の「スノチャレキャンプ」の運営を行ってきました。

キッツアンドスマートエコライフの協力を得て行ったこのリフレッシュキャンプは参加者および保護者から信頼されて4年間継続し、当協会の協会スタッフのスキルアップと活動実績に大きくつながりました。

(推薦団体：一般社団法人宮城県キャンプ協会)

桑川 浩二 氏

栃木県キャンプ協会理事

栃木県キャンプ協会では23年間にわたって、子どもたちを対象にした「自然生活体験キャンプ」を実施しています。毎年、文字通り原野を切り開くことから始まるこのキャンプに欠かせない人物が「クメちゃん」こと桑川浩二さんです。

桑川浩二さんは、このキャンプにスタッフとして19回参加し、カウンセラーはもとより、キャンプディレクター、装備、安全のチーフなどとして活躍されています。設営から撤収に至るまで、知識・経験・技術を最大限に発揮し、あらゆる作業に労苦を厭わない姿は、全会員のお手本になっています。若い時代に山岳会で磨かれたという登山、ハイキング、源流探検などの技術は、クメちゃんがいてこそそのプログラムです。

2002年からは理事としても協会運営に携わっていただいております、栃木県キャンプ協会にとって欠くことのできない人物です。

(推薦団体：栃木県キャンプ協会)

丸山 博 氏

群馬県キャンプ協会監事

群馬県キャンプ協会は1967年9月、県教委青少年室・社会教育課の指導の下に結成され、県内各学校及び青少年団体や企業を巻き込み、自然体験・野外活動を急激に発展浸透させましたが、残念ながら1990年11月に、23年間続いた活動の休止を余儀なくされました。その後、体験学習の重要性が広く訴えられるようになる中で、1998年4月に各方面に呼び掛け、再結成するに至る道を拓いてくれたのが丸川博さんです。

再結成後は協会の理事として基盤づくりに奔走し、現協会の基礎を築かれました。教師としても学校生活において自然活動に取り組んだり、小学生のマーチングドリルに野外活動を取り入れたりするなど、県内の野外活動へ情熱を注いでおられます。現在は協会の監事として我々の活動を厳しく見守ってくださっています。

(推薦団体:群馬県キャンプ協会)

川副 孝夫 氏

NPO法人千葉県キャンプ協会副会長

川副孝夫さんは、1980年7月、市川市でサンシャインクラブを設立。小中学生を対象に36年間連続してキャンプを続けておられます。まさにそれは、千葉県キャンプ協会の目指す、地域に根ざした活動そのものと言えます。2005年7月には、市川市キャンプ協会の発起人代表となり協会を設立、県協会の志向する、お互いの顔の見える関係をつくれる地域キャンプ協会のモデル的な存在となっています。

「野外活動を通して自然のいのちと共鳴し、共に生きていることを知る。自然を大事にすることは、自分も他の人も大事にすることであることと知る」という使命を胸に、千葉県キャンプ協会副会長として活躍されています。

(推薦団体:NPO法人千葉県キャンプ協会)

小林 新治朗 氏

神奈川県キャンプ協会会長

小林新治朗さんは、神奈川県の公立高等学校教諭を歴任するとともに、その間に教育庁指導部及び県民部施設課などでの職務にも就かれ、今日まで一貫して青少年教育キャンプ指導に専念、県内の野外活動施設の指導主事としてキャンプの実践指導にあたってこられました。1965年から1969年には日本キャンプ協会の初・中級指導者養成講座の講師も務められました。

また、1995年から1997年には県立足柄ふれあいの村の所長を務め、長年の青少年の教育キャンプへの貢献に対し知事表彰を受けられました。

(推薦団体:神奈川県キャンプ協会)

中能 孝則 氏

(公財)社会教育協会日野社会教育センター理事

公益財団法人社会教育協会ひの社会教育センターは、長年にわたり地域に根ざした社会教育・生涯学習事業を行ってきた団体で、中能孝則氏は1974年から、野外活動の事業の担当として尽力されてきました。また、地域に根ざした活動として、日野レクレーション研究会の会長としても活躍し、子ども会活動や、ジュニアリーダーの育成にも力を注がれてきました。さらに、キャンプリーダー養成講座等を実施し、多数のキャンプ・レクレーションの指導者を養成されています。

東京都キャンプ協会においては、キャンプ協会の設立から、理事団体としてキャンプ協会の運営に携わってこられました。役員候補者推薦委員会委員などを歴任し、キャンプ活動および野外青少年育成活動に大きく貢献されています。

(推薦団体:NPO法人東京都キャンプ協会)

清水 俊雅 氏

岐阜県キャンプ協会理事

清水俊雅さんは、小学生時に野外活動、キャンプ活動を中心に行う少年団に入り、キャンプに対する興味を持つようになりました。以来、中・高・大学とキャンプ活動に積極的に参加し、キャンプインストラクターを取得後は、キャンプの普及振興に努めておられます。

また、岐阜県キャンプ協会の事業にも積極的に関わってくださり、大変心強い指導者となっています。2015年4月からは理事として、会報誌『キャンピングぎふ』の編集に力を発揮してくださっています。
(推薦団体:岐阜県キャンプ協会)

公益財団法人京都YMCA

公益財団法人京都YMCAは、1889年に京都基督青年会として設立され、2009年に創立120周年を迎えました。ボランティア活動等を通じて人々の精神・知性・身体の調和と発達を主眼とし、生涯にわたる学習、語学教育、幼児教育、野外活動、健康教育、国際理解教育などの活動を行い、日本の教育のパイオニアとして現在も活動されています。

京都府キャンプ協会の運営にあたっては、1980年の協会設立当初より35年間にわたり事務局機能を担い、協会の発展に寄与してこられました。
(推薦団体:京都府キャンプ協会)

豊能登山キャンプクラブ

豊能登山キャンプクラブは、1983年、豊能地区の子どもたちと「非日常」のキャンプをするために、松田寿春さんが立ち上げたボランティア団体です。時代とともに変化する「非日常」の意味を敏感にとらえ、現在は「昔ながらの生活の中にある伝承的な生活技術や文化の体験」「自然とともにある生活や遊び」をキャンプ活動の核に据え、地道ながらも先進的な取り組みをしています。そして、このクラブ活動を通して育った人材が、グループ指導やプログラム運営などを担うリーダーとなり、次の子どもたちを指導するという循環を形成しているのです。

また、代表の松田寿春さんは、大阪府キャンプ協会で12年間にわたり専門委員として実質的な運営を担い、協会およびキャンプ活動の発展充実に尽力されてきました。現在はクラブで育った人材が後を継ぎ、委員として活躍されています。
(推薦団体:大阪府キャンプ協会)

吉藤 行二 氏

奈良県キャンプ協会常任理事

吉藤行二さんは、大学時代に奈良県野外活動センターでキャンプカウンセラーとしてボランティア活動をされ、卒業後、奈良県の小・中学校で教師として勤務した後、葛城市コミュニティセンターや県野外活動センターで活動されました。現在は奈良県葛城市新庄中学校教頭として子どもたちの育成に携わっておられます。また、キャンプディレクター1級の資格だけでなく、レクリエーションコーディネイターをはじめさまざまな資格を取得され、地域においてもいろいろな講習会講師として活躍されています。

また、奈良県キャンプ協会設立にも尽力、設立当初から常任理事として多大の貢献をされてきました。
(推薦団体:奈良県キャンプ協会)

野村 基 氏

島根県キャンプ協会常任理事

野村基さんは、島根県キャンプ協会の前身である島根県野外活動指導者協議会の設立と同時に、県教育委員会の野外活動活性化事業の任に当たられ、県内市町村の野外活動の推進・普及に尽力されました。野外活動を通じて児童・生徒の豊かな情操を養うことを目的に1975年設立された「島根県立少年自然の家」では、野外活動領域の専任スタッフとして設立当初から指導に当たられました。その後、日本キャンプ協会の指導者資格も取得され、地域の青少年育成のための教育キャンプに対する指導的役割を果たしておられます。

また、島根県キャンプ協会の常任理事として、インストラクター養成事業、BUC事業にも積極的に取り組んでおられます。長年の社会教育施設での経験豊富なキャンプ指導は本協会にとっても大変貴重な財産であり、後輩への技術継承などの任務に今後ますますご活躍が期待されます。

(推薦団体:島根県キャンプ協会)

花田 文甫 氏

岡山県キャンプ協会副会長

1988年から1993年までの6年間、岡山下各地で岡山県教育委員会主催の11泊12日の長期キャンプ、フロンティア・アドベンチャー事業「明日へはばたけ冒険キャンプ」が行われました。岡山県キャンプ協会は、このキャンプのスタッフがメインとなり設立されました。花田文甫さんは、第3回冒険キャンプから運営の中心を担い、当該事業修了後も多くの長期キャンプを企画運営するとともに、県キャンプ協会の設立に尽力されました。設立当時は理事長として、現在では副会長として、これまでの貴重な経験をもとに指導者養成に多大な貢献をされています。

(推薦団体:岡山県キャンプ協会)

薛 孝夫 氏

福岡県キャンプ協会事務局長

薛孝夫さんは、1994年に福岡県キャンプ協会会員となり、1999年に理事就任、2006年に事務局長となって今日に至ります。理事時代は、事業運営を分担するとともに、県内主要キャンプ場の植物調査や指導者養成講習会受講者の同期会活動の支援など地道な活動に取り組みました。また、事務局長就任後は、総会議案書や議事録等の文書整備、理事会議事録の配信、行事の案内と記録を網羅したニューズレターの定期的な発行など、事務局機能の大幅な充実を図り、県事業の発展と協会への求心力強化に努めてこられました。

この間、3人の会長の下で、九州ブロック全県でのキャンプ協会設立やブロック共同事業の立ち上げなど、歴代会長が九州全体を見据えて描いてきた構想の実現を事務局サイドから支えてこられました。コンセンサスを重んじつつ、与えられた職責を淡々と全うすることにより、結果として、会員サービスの向上や組織の強化に大きく貢献してこられました。(推薦団体:福岡県キャンプ協会)

浦崎 猛 氏

NPO法人沖縄県キャンプ協会理事

浦崎猛さんは、1961年、琉球大学を卒業後、那覇市の中学校教諭、教頭、高等学校教諭を務め、その後沖縄県教育庁へ奉職、母校の琉球大学の非常勤講師、沖縄県立芸術大学教授、退職後同大学名誉教授と、長きにわたって沖縄県の教育に携わっておられます。この間、県内の10にのぼるボランティア団体の委員、会長として活躍、その功績が認められ数々の大臣表彰を受けられたのみならず、2008年には瑞宝章を授章されました。

沖縄県キャンプ協会においては、県立芸術大学時代に役員に就任、活動の傍らキャンプ関係の著書を発行し、我々の活動を助けてくださいました。その後も多忙を極め、いったんは退くも県協会の強い希望に応え、理事として復帰、県キャンプ協会の活動を活発化すべく、人脈の広さを遺憾無く発揮されています。

(推薦団体:NPO法人沖縄県キャンプ協会)

中島 安貴輝 氏

公益社団法人日本キャンプ協会運営委員

中島安貴輝さんは、デザイン事務所アートアンドグラフィック主宰の傍ら、1998年4月からは日本大学芸術学部の教授を務められました。2013年1月の教授退任後も、同大学、大学院で引き続き後身の育成に努めておられます。

1994年に日本キャンプ協会のロゴマークを作成していただき、それをきっかけに1995年から広報出版委員会、現在のCAMPING編集部会の委員として長きにわたりお力添えいただいています。1995年1月発行の『CAMPING』から、タイトルロゴやデザインが一新されましたが、このデザインも中島氏によるものです。その後も2000年の国際キャンプ会議のロゴマークやキャンプ場のピクトグラムなどを手掛け、日本キャンプ協会のイメージアップに多大な貢献をいただきました。

(推薦団体:公益社団法人日本キャンプ協会)



CAMPING AWARD 2015 贈呈式

公益社団法人日本キャンプ協会 2014・2015 年度 役員
(2016年3月31日現在)

名誉会長	酒井 哲雄	頌栄保育学院学院長
顧問	齊藤 保夫	元・城西大学教授
顧問	富岡 幸生	元・(一財)日本健康開発財団 専任講師
顧問	野間口 英敏	東海大学 名誉教授
顧問	長谷川 純三	(一社)日本オートキャンプ協会 名誉会長
顧問	野澤 巖	元・埼玉大学 教授
顧問	永吉 宏英	大阪体育大学 教授
顧問	石田 易司	桃山学院大学 教授
顧問	吉田 大郎	元・静岡県立朝霧野外活動センター所長
会 長	星野 敏男	明治大学 教授
副 会 長	鳥井 信吾	サントリーホールディングス(株) 代表取締役副会長
専務理事	金山 竜也	(公社)日本キャンプ協会 事務局長
常務理事	神崎 清一	(公財)日本YMCA 同盟 理事
常務理事	柴田 俊明	(公財)児童育成協会健全育成事業部 職員
理 事	木村 公一	(公財)ボーイスカウト日本連盟 事務局長
理 事	佐藤 初雄	(NPO)国際自然大学校 理事長
理 事	高野 孝子	(NPO)エコプラス 代表理事
理 事	高橋 聡美	防衛医科大学校 教授
理 事	高見 彰	大阪国際大学 教授
理 事	竹下 珠路	(公社)ガールスカウト日本連盟 副会長
理 事	針ヶ谷 雅子	明治大学 兼任講師
理 事	平野 吉直	信州大学 教授
理 事	外山 眞理	(公財)東京YWCA 青少年育成事業部統括責任者
理 事	佐 東 治	山形県キャンプ協会 副会長 (東北・北海道)
理 事	渡 邊 忠	茨城県キャンプ協会 会長 (関東)
理 事	村田 良紀	富山県キャンプ協会 副理事長 (中部・北陸)
理 事	錦織 一郎	大阪府キャンプ協会 会長 (近畿)
理 事	仲 野 寛	島根県キャンプ協会 会長 (中・四国)
理 事	宮 里 勉	沖縄県キャンプ協会 理事長 (九州・沖縄)
		理事 以上 20人
監 事	小田原 一記	(公財)日本レクリエーション協会 総務・経理チームマネジャー
監 事	村松 真哉	(公財)ハーモニィセンター 理事
監 事	井 上 透	岐阜女子大学 教授
		監事 以上 3人

公益社団法人日本キャンプ協会 2014・2015年度 運営委員
(2015年3月31日現在)

研修事業委員会

今井 正裕	(一財)大阪府青少年活動財団 吉野宮滝野外学校部長
小森 伸一	東京学芸大学 准教授
月橋 春美	宇都宮共和大学 准教授
引間 紀江	(独)国立女性教育会館 事業課ネットワーク構築・事業推進係長
柴田 俊明 (担当理事)	(公社)日本キャンプ協会 常務理事

CAMPING 編集タスクチーム

池畑 亜由美	順天堂大学 協力研究員
翠尾 由美	(公財)児童育成協会 職員
野口 和行	慶應義塾大学 准教授
山梨 雄一	東京YMCA 職員
吉田 理史	(NPO)信州アウトドアプロジェクト 代表理事
吉松 梓	駿河台大学 助教
柴田 俊明 (担当理事)	(公社)日本キャンプ協会 常務理事

指導者養成委員会

鈴木 由美	女子美術大学 非常勤講師
富山 浩三	大阪体育大学 教授
中村 正雄	大東文化大学 教授
金山 竜也 (担当理事)	(公社)日本キャンプ協会 専務理事

日本キャンプミーティングタスクチーム

小森 伸一	東京学芸大学 准教授
多田 聡	明治大学 教授
永吉 英記	国土舘大学 准教授
渡邊 仁	筑波大学 助教
星野 敏男 (担当理事)	(公社)日本キャンプ協会 会長

地域連携委員会

川口 博行	山口県キャンプ協会
工藤 福成	大分県キャンプ協会
清水 勲夫	兵庫県キャンプ協会
田丸 良明	石川県キャンプ協会
藤枝 隆	(NPO)東京都キャンプ協会
村山 昌俊	新潟県キャンプ協会
神崎 清一 (担当理事)	(公社)日本キャンプ協会 常務理事

総務委員会

神谷 稔 (NPO)埼玉県キャンプ協会 理事
神崎 清一 (担当理事) (公社)日本キャンプ協会 常務理事

設立 50 周年記念事業に関する委員会・作業部会等

日本キャンプ協会設立 50 周年記念事業組織委員会

委員長	星野 敏男	公益社団法人日本キャンプ協会 会長
副委員長	師岡 文男	AOCF 前会長・名誉顧問/ICF 理事(AOCF 担当)
委員	田中 壮一郎	独立行政法人国立青少年教育振興機構 理事長
	島田 茂	公益財団法人日本 YMCA 同盟 総主事
	川戸 れい子	公益財団法人東京 YWCA 代表理事
	奥島 孝康	公益財団法人ボーイスカウト日本連盟 理事長
	浅野 万里子	公益社団法人ガールスカウト日本連盟 会長
	井上 成美	一般社団法人日本ウオーキング協会 常務理事
	山西 哲郎	公益社団法人日本オリエンテーリング協会 会長
	加藤 元彦	公益財団法人日本サイクリング協会 副会長
	水野 宰	一般財団法人日本ユースホステル協会 理事長
	小西 亘	公益財団法人日本レクリエーション協会 理事長
	明瀬 一祐	一般社団法人日本オートキャンプ協会 会長
	西澤 信雄	公益社団法人日本シェアリングネイチャー協会 代表理事
	永吉 宏英	日本野外教育学会 会長
	斉藤 泰幸	日本アウトドアネットワーク(JON) 運営委員長
	佐藤 初雄	NPO 法人自然体験活動推進協議会(CONE) 代表理事
	針ヶ谷 雅子	公益社団法人日本キャンプ協会 理事(50周年事業担当)
	藤 枝 隆	公益社団法人日本キャンプ協会 地域連携委員
	金山 竜也	公益社団法人日本キャンプ協会 事務局長・専務理事
監事	村松 真哉	公益財団法人ハーモニィセンター 理事
	宗像 弘行	一般財団法人日本ユースホステル協会 総務課長
顧問	石田 易司	公益社団法人日本キャンプ協会 顧問/AOCF 副会長
	田中 祥子	ICF 前副会長/AOCF 名誉顧問

研究・研修部会

岡田 成弘	仙台大学 講師 ※部会長
小森 伸一	東京学芸大学 准教授
富山 浩三	大阪体育大学 教授
濱谷 弘志	北海道教育大学岩見沢校 准教授
渡邊 仁	筑波大学 助教

白書部会

多田 聡	明治大学 教授 ※部会長
青木 康太朗	北翔大学 准教授
伊原 久美子	大阪体育大学 准教授
甲斐 知彦	関西学院大学 教授
藤江 龍	(独)国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター 研究員
柳下 史織	(公財)東京YWCA 青少年育成事業部教育キャンプ課 主任

イベント部会

熊澤 桂子	東京教育専門学校 専任講師 ※部会長
小林 秀雄	東京YWCA 野尻キャンプリーダー
清水 幸一	四国学院大学 教授
村井 伸二	玉川大学 助教
村松 真哉	(公財)ハーモニィセンター 理事

ホスピタリティ部会

三浦 壮一郎	(公財)東京YMCA 職員 ※部会長
江川 潤	神田外国語大学 特任講師
久野 愛子	フリーランス
鈴木 かなえ	桐朋女子中学高等学校 非常勤講師
花田 道子	九州共立大学 助手
野澤 順子	グローシエリートアカデミー(株) 代ゼミサテライン予備校成田校室長

ICDC(International Camp Director Course)部会

加藤 綾音	(NPO)S-space 本部/野外活動担当 ※部会長
堀内 佳奈	(一財)国民公園協会 職員

グッズ部会

太田 正義	静岡県立朝霧野外活動センターコーディネーター ※部会長
-------	-----------------------------

アドバイザー

石田 易司	(公社)日本キャンプ協会 顧問・桃山学院大学 教授
佐藤 初雄	(公社)日本キャンプ協会 理事・(NPO)国際自然大学校 理事長
高野 孝子	(公社)日本キャンプ協会 理事・(NPO)エコプラス 代表理事
高橋 伸	AOCF 前事務局長
田中 祥子	ICF 前副会長/AOCF 名誉顧問
永吉 宏英	(公社)日本キャンプ協会 顧問・大阪体育大学 教授
星野 敏男	(公社)日本キャンプ協会 会長・明治大学 教授
師岡 文男	AOCF 前会長・名誉顧問/ICF 理事(AOCF 担当)・上智大学 教授

共同事業としてのグリーンキャンプの委員会

グリーンキャンプ組織委員会

大井屋 健治	(社福)朝日新聞厚生文化事業団 常務理事
神崎 清一	(公財)日本 YMCA 同盟 理事
星野 敏男	(公社)日本キャンプ協会 会長

グリーンキャンプ実行委員会

太田 正義	常葉大学 講師
坂本 昭裕	筑波大学 教授
吉田 一郎	(公社)日本キャンプ協会 顧問
長谷川 孝	(一社)宮城県キャンプ協会 会長
福田 年之	(社福)朝日新聞厚生文化事業団 事業部長
山根 一毅	(公財)日本 YMCA 同盟 主任主事

事務局スタッフ

(2016年3月31日現在)

事務局長	金山 竜也	(全体統括・公2事業・法人事務)
事務局次長	秋山 千草	(法人事務)
主 事	吉野 宏美	(公1事業)
主 事	前田 將太	(公2事業)
主 事	五月女 真弓	(公1事業)
主事(契約職員)	林 健児郎	(公3事業)

静岡県立朝霧野外活動センタースタッフ

(2016年3月31日現在)

所 長	太田 恒義	指 導 職	小西 岳勝
副 所 長	四條 忠男	指 導 職	立林 雅貴
コーディネーター	太田 正義	指 導 職	北條 友加里
事業課長	櫻井 良樹	指 導 職	保科 哲也
指 導 職	大崎 健太	指 導 職	向島 克明

50th Anniv.
NCAJ

2016 年、日本キャンプ協会は設立 50 年！

